



新約聖書から見た旧約聖書
アブラハム契約・ダビデ契約

| 新約聖書から見た旧約聖書 | | 2016.10.5 | |
|--------------|---------------------------------|-----------------|---------------------------|
| マタイ: 系図 | 新約聖書での 言及 | 新約聖書での 直接引用元 | ルカ24:44 モーセの律法と預言者と詩篇 |
| BC2000 アブラハム | 69 (17*10. 10-2*9. カサト.9) | 創 * 25 | } アブラハム契約 モーセの律法 |
| BC1500 (モーセ) | 79 (使*19. ヘブル*11) | 出-申 * 73 | |
| BC1000 ダビデ | 54 (福*45) | | } ダビデ契約 預言者 (おし+おす) |
| (イザヤ) | 21 (福*16) | イザヤ * 53 | |
| BC500 出バビロン | | 詩篇 * 57 | } モーセ+ダビデ 詩篇 |
| AD1 イエス・キリスト | | 他*46 | |

聖書全体、特に旧約聖書で言われている大きなテーマが2つあります。アブラハムの契約とダビデの契約、アブラハムへの約束とダビデへの約束です。

聖書の中で、新約聖書から旧約聖書を見たときに、どう見えているのかというのが、こちら(2ページ目の資料)です。マタイ福音書1章に系図が載っています。

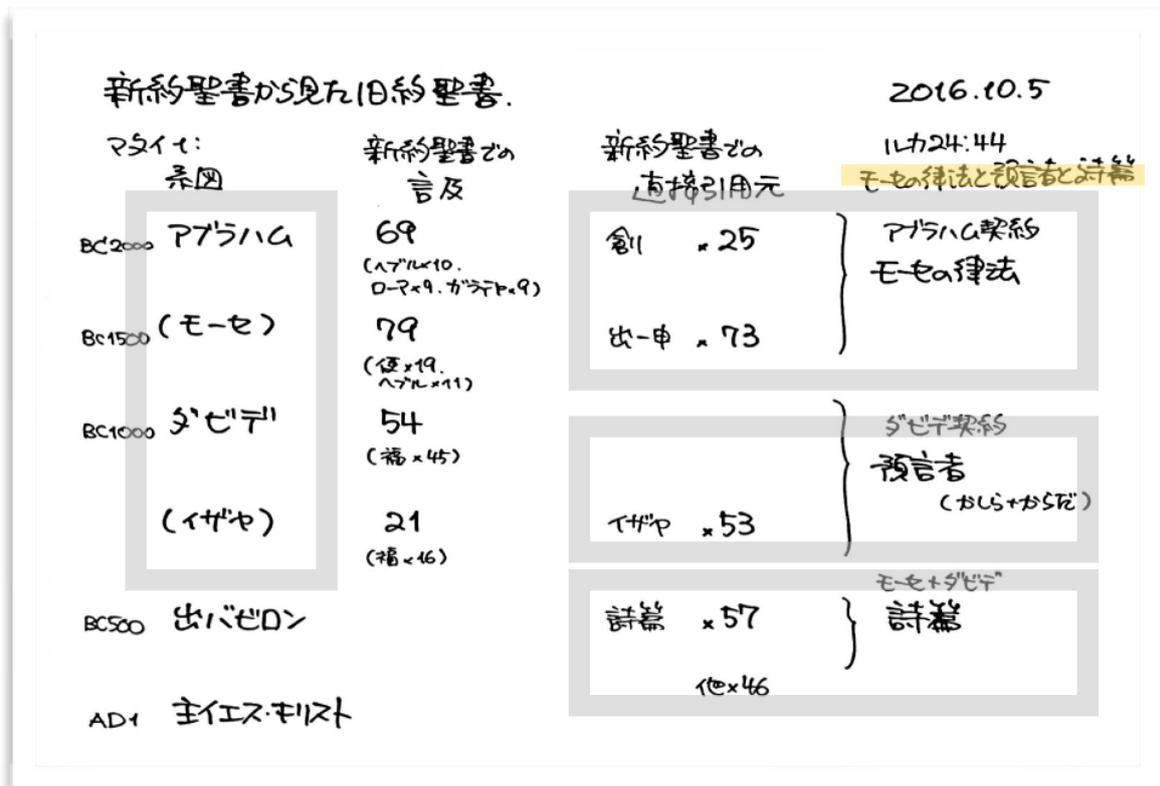
アブラハムの子、ダビデの子、イエスキリストの福音というふうに始まりますが、アブラハムからダビデまでが14代、ダビデからバビロンに連れて行かれるまでが14代、バビロンからキリストまでが14代と系図の中に書いてあります。アブラハム、ダビデ、そしてバビロンから出る…となります。

アブラハムという名前は、新約聖書で「アブラハムにこう言われました」とか、「父アブラハムが…」というふうに言及されるのが69回、ダビデは54回、特に福音書の中で「ダビデの王座」「ダビデの子」というのが54回のうち45回出てきます。そのほかに新約聖書に出てくる旧約聖書の人の名前が多いのはモーセが79回です。アブラハムもモーセもヘブル人への手紙の中で10回ずつ出てきて、モーセは使徒行伝で19回出てきます。アブラハム、モーセ、ダビデが多く出てきます。数は少なくなりますが、イザヤが21回、福音書の中では16回出てきます。「イザヤかこう預言しています」と預言者で21回出てきます。

| 新約聖書から見た旧約聖書. | | 2016.10.5 | |
|---------------|-------------------------------|-----------------|-----------------------------|
| マタイ: ルカ | 新約聖書での 言及 | 新約聖書での 直接引用元 | ルカ24:44 モーセの律法と預言者と詩篇 |
| BC2000 アブラハム | 69 (1ペテロ10. ローマ9. ガラテ9) | 創 * 25 | } アブラハム契約 モーセの律法 |
| BC1500 (モーセ) | 79 (使19. ヘブル11) | 出-申 * 73 | |
| BC1000 ダビデ | 54 (祝福45) | イザヤ * 53 | } ダビデ契約 預言者 (おしら+おしら) |
| (イザヤ) | 21 (祝福46) | | |
| BC500 出バビロン | | 詩篇 * 57 | } モーセ+ダビデ 詩篇 |
| AD1 主イエス・キリスト | | 他*46 | |

そのほかに新約聖書の中で旧約聖書の箇所が「こう書かれています」とか「イザヤがこう言っています」など直接引用されているカギカッコになっている箇所や、直接は引用していないけれど明らかに旧約聖書の箇所を指しているところとかたくさんあるので数え方がいろいろあります。その中で特に直接引用されているところを数えると、創世記が25回、出エジプト記から申命記までが73回（モーセの書物）、イザヤ書が53回、詩篇が57回引用されています。他の書物（箴言、ホセアなど）を集めると46回となります。

モーセ5書といわれている創世記から申命記までが合わせて100回、イザヤと詩篇を合わせて100回が直接引用されているところです。



人の名前で新約聖書側から見た旧約聖書は、アブラハム、モーセ、ダビデ、イザヤに分けられ、書物でいうと、モーセの律法、預言者イザヤ、詩篇の3つに分けられます。ルカ福音書24章44節では、「モーセの律法と預言者と詩篇に書いてあることはすべて成就する」と言ってイエス様自身が旧約聖書をこの3つの言い方でまとめて呼んでいます。モーセの律法と預言者と詩篇です。

預言者というのは、王の歴史であるサムエル記、列王記のようなものと、預言書（預言者の書）であるイザヤ書、エレミヤ書、エゼキエル書、準預言書など頭（かしら）の書物と体の書物という両方をまとめて預言者と言います。

モーセの律法と預言者と詩篇というふうに旧約聖書を見えています。

この流れから見ると、モーセの律法とはモーセの契約というよりは、アブラハムの契約の成就としてモーセの律法がまとまっています。

ダビデの契約は、ダビデへの約束の成就として、ダビデの契約がどう成就していくのかを預言者の書物の中で話されています。

詩篇はバビロンから連れ帰られたあとにエズラが編集したといわれていますが、バビロン捕囚のあとに霊の歌として編集されていると考え、モーセに与えられた律法、アブラハムの契約とダビデの契約を覚えてバビロンから連れ出してくださったということが詩篇の書物の役割になります。

これは（資料1 ページ目）詩篇の書物がアブラハムの契約とダビデの契約の大きな約束と一致しています。その内容がもっと細かく成就している形で編集されていると言えます。では、アブラハムの契約とは何ですか、ダビデの契約とは何ですか、ということを見てください。